

「わかりあえないことから」

芸術文化観光専門職大学 学長 平田 オリザ 氏



相手がどんなつもりでその言葉を使っているのか（コンテキスト）を汲み取って、さらに共感等（シグナル）を返すことが大切です。特に、これからのリーダーには、**論理的にしゃべれない人のコンテキストを汲み取る能力**が求められます。

芸術文化観光専門職大学
学長 平田 オリザ 氏



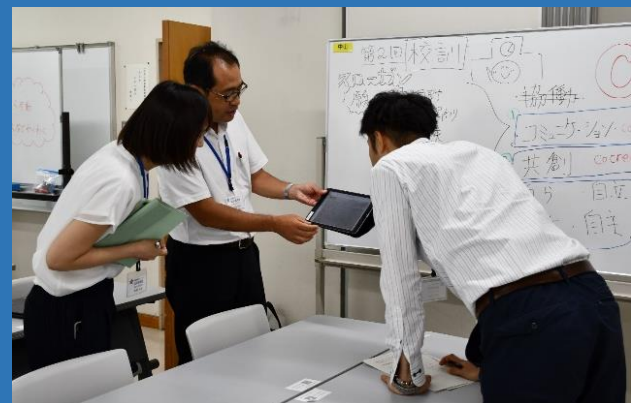
●塾生の声

- ・「論理的に話す能力を身に付けるよりも、論理的に話せない人の気持ちを汲み取れる人間になってほしい」という言葉に、ハッとしました。自分自身もそうでなければならぬし、学級でも同様にそのような考え方が浸透すれば、誰もが安心して過ごせる空間になると感じました。
- ・「わかりあえないこと」を出発点とし、コミュニケーションの多様性、文化の多様性を受け入れて分かり合おうとする力を自分自身が身に付けていきたいと考えました。

明確なねらいのもと各回の研修が実施されます

第2回のテーマは「求められる資質・能力」です

第1回で考えた理想の学校像を目指す子供の姿から問い直し、**理想の学校の校訓**を考ました。

企画・運営研修
「開（KAI）」

●塾生の声

- ・今回の研修で、「自らの学びを選び、協働しながら、創り出す」という一つの目指す子供像が自分自身の中ではっきり見えてきました。その中でも「創り出す=Creative」というキーワードが校訓となるのではないかとすることに熟議の末行きつきました。
- ・校訓とは、目指す児童像を凝縮して表現したものであるということに自覚しました。それと同時に、地域に向けて、もっと「この学校ではこんな子供を育てていきたいと思っています」と発信していきたいと感じました。